

第1回神栖市若手医師きらっせプロジェクト推進会議サマリー

1 日時・場所 令和元年7月16日(火) 19:00～21:00
神栖市保健・福祉会館研修室

2 出席者 出席者 委員10人 病院事務局4人 市 7人
(別紙名簿のとおり)

3 会議結果

(1) 市長あいさつの後、委員の自己紹介を行った。

その後、当推進会議の情報公開の扱い方について合意がなされた。

【合意内容】

- ・公開は頭撮りまでとし、協議時は非公開。終了後のぶらさがり取材は、座長又は事務局が対応する。
- ・サマリーを作成し、後日出席委員に確認のうえ、了解が得られたものを公開する。

(2) 神栖市若手医師きらっせプロジェクト事業の概要について

- ・目的、事業スキーム、推進体制とプロジェクト事業、スケジュール案を事務局から説明し、了解が得られた。
- ・推進会議は、全体会議と分科会を設けること、事業は、病院自身の事業展開と連携しての取組み、先進地研修や交流会の開催なども計画していることを説明し、了承された。
- ・続いて「市内医療機関研修プログラムの充実」「地域特性を生かした研修メニュー開発」「ソフト・ハードの研修環境向上対策実施」「支援制度の概要」「情報発信」について事務局から説明をしたうえで、協議を行った。

(3) 市内医療機関研修プログラムの充実について

- ・医療法等の改正により、今後、地域枠医師などの派遣調整を受けようとする当地域の医療機関にとって、県内のより多くの専門医プログラムの連携病院となる必要があること、市内医療機関のプログラム参加の現状、連携病院となるための手続きやスケジュールなどについて確認した。
- ・これらに対応していくため、院内に研修委員会を設けて対応を進めている病院もあるなど、各医療機関においては、今後、鋭意取組を推進していくという抱負や方針が示された。

(4) 地域特性を生かした研修メニュー開発について

- ・ 専門医研修プログラムをはじめ、中堅医師が神栖で医療に従事することにより得られるスキルや資格取得が可能となるような特色ある研修メニューを開発していく必要性、また、「企業集積」や「スポーツ合宿年間30万人」などの地域特性の活用の意義について確認した。
- ・ テーマ毎に分科会を設置して検討することを合意した。特に、企業集積を生かした産業医の資格取得や総合診療科や総合内科プログラムとの連携について、具体的にプログラム作りに取りかかることを確認した。

【産業医に関して】

- ・ 幅広く研修したいシニアレジデントにとって、産業医領域は、とても学びたい領域であること。一方で、実際に学べる場所、指導を受けられる場所が少ない中、ここ鹿島臨海工業地帯には経験豊富な産業医が存在し、また、日本でも唯一の社会医学の専門がとれる企業内診療所もあり、こうした環境や資源を生かして、企業型研修の大きな魅力の創出が期待できるとの見解が示された。
- ・ プログラムの検討に当たっては、
「産業医研修は、しっかりしたプログラムをつくることが基本となること、ターゲットを絞って、仕掛けを変えてやることが重要」
「経験豊富な産業医が、座学でも実践でもどんなことでも教育できることや、産業医の特性である限られた財源の中で効果的に診療を提供するといったマネジメント分野の教育も可能であること。」
「多職種、他施設の連携によるプログラムづくりが必要」
などの意見が出された。

(5) ソフト・ハードの研修環境向上対策実施について

- ・ 指導する側の医師にとって、安心して医療や指導に専念できること、指導時間を確保できることが肝要であり、そのために、医療クラークを配置することが大変効果が高いとの見解が示された。指導医の負担が大きくなると悪循環に陥りやすいため、こうした対策が重要との意見が多数示された。鹿嶋ハートクリニックの医療クラークは非常にレベルが高いとの情報提供があった。
- ・ 院内（あるいは市内医療機関に共同で）に、セミナーの情報発信やとりまとめ、研修医の活動をサポートするようなスタッフの配置など、体制作りが必要との意見が多数示された。

(6) 支援制度の概要について

- ・ 指導医確保支援事業や寄附講座開設事業、修学資金貸与事業など若手医師の就業促進に資すると考えられる現行の市の支援制度の説明がなされ、今後、よ

り効果が高い、あるいは使いやすい制度としていけるよう、また、各委員に対し、随時、の様々な提案をしていただけるよう市から要請がなされた。

(7) 情報提供について

- ・ 想定している情報発信対策の柱「専用ホームページの設置」「メルマガ・医学雑誌への掲載」「地域医療セミナーの開催や誘致」「レジナビへの出店」など短期、長期に取り組みたい対策案等が事務局から説明され、協議が行われた。
- ・ 現状では、神栖という都市全体の情報発信が弱いとの意見や、若手医師向けの勉強会（セミナー）を開催しているが、全国への情報提供やイベントのとりまとめなどが十分にできていないとの意見が出された。若手医師向けの勉強会を強力に発信し、一度神栖市の現地に足を運んでもらうことが大切との見解も示された。

若手医師が集まっている病院は、「ブランドがあること」「プログラムがしっかりしていること」「研修後の進路の多様性があること」という側面からも学ぶべきものがあるとの指摘もなされた。

(8) その他主な意見

(症例数の確保の視点から、次のような発言があった。)

- ・ 若手医師にとっては、多くの症例と優秀な指導医が必要であること。
- ・ 初期研修医や専攻医など、それぞれに集め方があることに留意すべきこと。
専門医やその上の段階の研修においては、豊富な症例数の確保が鍵であるが、医師が少ない当地域は、むしろ多くの症例を扱える利点があることを再確認すべき。

(働く環境の視点から、次のような発言があった。)

- ・ 医師確保に当たっては、働きやすい病院作りが重要であり、当直室や食堂の状況を医学生にチェックするよう指導していること、女性医師にとっての子育てと仕事の両立が可能なサポート体制などが重要なことなど。

(指導医の姿勢や確保等の視点から、次のような提案、意見があった。)

- ・ 研修はわくわく感で楽しそうにやることが大事であり、そのためには、指導医側に余裕が必要。
- ・ こうしたプロジェクトの推進にはポジティブシンキングで臨むことが大切であること。
- ・ 安心して診療と指導に専念できるサポート体制が重要であること。
- ・ 優秀な指導医、有名な指導医を常勤で雇用することが難しい場合は、フレックスなど工夫をしてはどうか。

- このプロジェクトの取組については、地元の医師の方にもお知らせをすることが肝要であること。

(医学生の視点からの留意点についての発言があった。)

- 研修先の選定に当たり、／交通の便／週末のお出かけの利便／平日通勤のサポート（タクシーなど）／子供（中学高校）の教育機関の有無（→ないときは、独身の時、子育て終了後しかこられない。）などが求められていることも意識しておくこと。
- 学生向けでは、夏休みにおける病院見学、研修等という手法もある。

第1回 神栖市若手医師きらっせプロジェクト推進会議 出席者名簿

日時 令和元年7月16日(火)

19時～

場所 神栖市 保健・福祉会館
研修室

○ 委員名簿

(敬称略)

	区分	氏名	出席者	
1	茨城県立中央病院 名誉院長	永井 秀雄	永井 秀雄	コーディネーター
2	東部地区健康管理クリニック 医師	榎元 武	榎元 武	産業医
3	日本製鉄(株)鹿島製鉄所 医師	田中 完	田中 完	産業医
4	神栖済生会病院 副院長	大久保 信司	(欠席)	内科(循環器内科) 日本高血圧学会 指導医
5	神栖済生会病院 副院長	西 功	西 功	内科(循環器内科) 日本循環器学会 専門医
6	神栖済生会病院 外科部長	坂田 義則	(欠席)	外科 日本消化器内視鏡学会専門医
7	神栖済生会病院 小児科部長	庄野 哲夫	(欠席)	小児科 日本小児科学会専門医
8	神栖済生会病院 内科医長	細井 崇弘	(欠席)	内科 日本プライマリケア学会認定家庭医療専門医
9	白十字総合病院 消化器内科部長	赤井 博孝	赤井 博孝	労働衛生コンサルタント
10	鹿嶋ハートクリニック 副院長兼ハートリズム・センター長	佐藤 寿俊	佐藤 寿俊	循環器内科(不整脈)
11	鹿嶋ハートクリニック 循環器センター長	角田 修	角田 修	循環器内科(虚血)
12	鹿嶋ハートクリニック 脳神経外科血管治療センター長	大橋 智生	(欠席)	脳神経外科
13	鹿嶋ハートクリニック 心臓血管外科部長	古谷 光久	古谷 光久	心臓血管外科
14	筑波大学附属病院 講師	阪本 直人	阪本 直人	総合診療科
15	国際医療福祉大学 教授	和田 耕治	和田 耕治	大学院医学研究科 公衆衛生学専攻

○ 医療機関事務担当者

1	神栖済生会病院 事務長	佐久間 正敏
2	神栖済生会病院 総務課主任	加藤 千鶴
3	白十字総合病院 総務課主任	坂本 展一
4	鹿嶋ハートクリニック 事務長	平手 栄一

○ 神栖市

1	市長	石田 進	
2	健康福祉部長	畠山 修	
3	医療対策監	藤枝 昭司	
4	地域医療推進課【事務局】	課長	高崎 正己
5		課長補佐	石川 賢一
6		係長	岩井 栄祐
7		主事	清田 麻由子